あなたの思う「透明」ってどんなもの? と僕は問う。

朴木新

美術・工芸コース



現代アート/エポキシ樹脂、ステンレス、合板、脚材/h1300×w800×d1100mm

愛でる

橋夏海

美術・工芸コース



彫刻/ジェスモナイト(水性樹脂)、アクリル絵具、ピアノ線/h630×w1410×d810mm

FEMININITY

藤井朱里

美術・工芸コース

エドガー・ドガ〈踊り子〉をオマージュ し、娼婦としてのバレリーナを主題に、 生まれ持った身体の性質を懐き、現 代を多様に生き抜く女性を表現した。 昨今、芸術に限らない多くの性的な 表現に対し、性差別の撤廃や多様性 への配慮を謳った不適切な規制が 行われていると感じる。中でも、現代 の日本では、セックスワークは女性の 身体を性的に搾取するものだ、という 意見がフェミニストの言論として抱擁 されることがしばしば起こっている。 しかし、性的であることが必ずしも女 性差別を助長するわけではなく、女 性の自己決定である性や生殖のあり 方を否定することは、従来のフェミニ ズムにおける家父長制的な性のあり 方への反抗を否定することになると 考える。

女性が自らの性的欲望やセクシュア リティを自覚すること、女であるという 性質をさまざまに受容し、性や生殖 の在り方を自由に選択することにつ いて思考し、制作に至った。



彫刻/ジェスモナイト(水性樹脂)、アクリルガッシュ、チュチュ、パールビーズ/h1300×w1100×d1100mm

perfect

歪んだ鏡を用いた人物模刻による現実と己の現実との差異表現

山口優希

美術・工芸コース

相手が私に対してひどく怒っている。 どうしてそうなるのか私には分から ない。

全く異なる価値観を持った相手に出 くわし、翻弄された時に相手の見る 現実と実際の現実にずれが生じて いることを知る。それを機に、己の信 じた価値観を完全と思って振る舞う 不完全な人格を外に表出させようと した。

この作品では歪めた鏡に映る像を主 観、そして鏡を見ながら粘土で作る 形を現実として、自分と価値観が異 なる相手の忠実な首像を鏡の中に 追体験的に作っていった。

大きな粘土を取ったはずなのに画面 の中では小さな粘土が写っている、 実際の形と鏡を見た形との感覚の ギャップに思う形にならない中で少 しずつ相手の歪み、自分自身の歪み を自覚し歩み寄っていく。







立体造形/粘土、木材、シュロ縄、ミラーシール、アルミ板、スタイロフォーム/h2000×w4000×d1000mm

面と線

鎌上大輔

デザインコース

立体物にデッサンを描くとどうなるのか。それがこの作品の始まりです。極端に言えば、面の集合体である立体の彫刻、線の集合体である平面の絵。この二つに違いはあるのか。立体である意味とは。線である意味とは。一つの作品に置いてこの二つが、それぞれを補い合い、違和感を持たせ、併存する。



彫刻/石膏、サイザル、ペン、合成樹脂塗料、木材/h350×w300×d1000mm

煙、立つ

Open the eyes

中村杏

美術・工芸コース

煙が立つ。

そこには何も無かったはずなのに。い や本当はあった。見えなかっただけ。 人は日々、様々な感情を生み出しては 忘れていく。それらはどこかを漂って いるのではと思うことがある。心が燃 え上がって、煙を吐き出す。それが遠 くに見える。「面をつけて舞うのでは なく、面を舞わせるのだ」という能の 言葉がある。憑依状態になることを目 指しているのだろう。何かのきっかけ で、感情が蘇ることがある。まるで漂 う過去の感情が憑依しているようだ。 それはひとつの幽霊の形なのではな いか。ならば、と考える。感情が生まれ た瞬間の形もあるはずだ。生まれたも のがあるならば生まれる前のものが あり、外側があるならば中身もある。 柔らかく幾何学的な造形から顔を出 す、今まで中身であったもの。その生 まれる瞬間を「面」の形にした。

煙が立ち、その一呼吸に、人は人生を 変えられる瞬間がある。遠くに煙が 立っているのが見える。



彫刻、インスタレーション/はりこ、和紙、岩絵具、アクリルガッシュ、レース糸、映像/サイズ可変

信仰

森千紘









彫刻/石膏、アクリルガッシュ/h550×w1030×d300mm

Mold

西岡佑

造形芸術コース

彫刻の制作過程で、石膏は別の素材で作品を完成させる途上の中間素材として扱われることがある。石膏に水を加えて混ぜ合わせると液状になり、数十分で硬化する。石膏のこうした性質を利用し、型(mold)に沿わせて石膏に形をもたせるが、型がなければ石膏は形が定まらない。人は、生まれた時代などの外的環境、性別、信条などの様々な要因に応じて自己を形成する。何かになろうとする瞬間、人は不安定さとともに、あらゆる可能性ををもつ。石膏も人も、なにかになろうとするその瞬間を作品にした。



立体造形/石膏、鉄/h2004×w650×d400mm

目覚める

吉野瑞穂 造形芸術コース



立体造形/張子、紙/h950×w1250×d1680mm

小さな森を愛する

長谷川桃子 造形芸術コース



彫刻/樹脂、和紙、アクリル絵具、岩絵具、水干絵具/h594×w614×d591mm